

秋田県鹿角市大湯温泉 龍門亭 千葉旅館

# みちのく ココロとカラダの癒し旅

東北を代表する景勝地十和田湖も、秋の観光シーズンを終えて静寂の時を迎えようとしている。

十和田湖はもともと自然の景観が優れているため、一面銀世界の冬の風情も、なかなか捨て難いものがある。かつて湖畔の宿は、冬はオフシーズンとして休業するところが大半だったが、近年は雪の中の十和田湖や奥入瀬渓流の情景に引かれる人も多く、冬シーズンも営業を休まない宿が増えた。

十二月に東北新幹線が八戸まで延伸することもあって、今年の冬はいつになく訪れる人の多い十和田湖になるのではないだろうか。

秋田県側から十和田湖に向かう場合、小坂町の樹海ラインルートと鹿角市の国道103号ルートとの二本がある。その国道103号の途中にあるの

が大湯温泉だ。

大湯温泉は開湯八百年といわれ、江戸時代には南部藩の温泉保養地としてたいへんにぎわっていたのだとか(かつてこの地は南部藩の領地だった)。

また、尾去沢、小坂とともに秋田の三大銅山の一つに数えられた不老倉鉱山のお膝元として、鉱山景気の恩恵に浴した時代もあった。

今でこそ、やや地味な印象の否めない大湯温泉だが、逆にそれは、老舗温泉郷の風格というものなのかもしれない。

鹿角市大湯地区は戸数千六百あまり。その大半の家庭では今でも自宅に風呂がないという。地区内にある四カ所の共同浴場の利用で事足りている。温泉が住民の生活の中心になっている町なのだ。



青い屋根の建物が共同浴場の「荒瀬の湯」。大湯温泉には全部で4つの共同浴場がある



野中堂環状列石



小坂町天使館(旧聖母マリア園)



小坂町小坂鉱山事務所

三界の滝



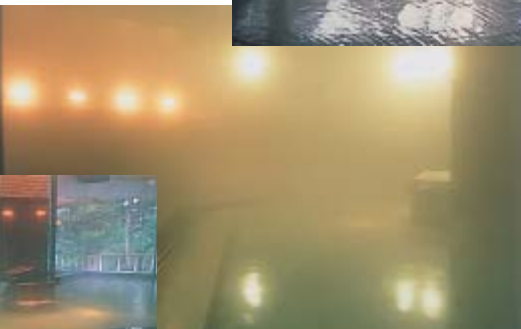
### 創業者は南部藩士

龍門亭千景旅館も、南部藩に因縁  
浅からぬものがある。

南部北家の藩士であった千葉  
禮八胤虎れいはちたねとらが明治二年（一八六九年）  
に旅人宿を開業したのがこの宿の始  
まりであり、以来、百三十年余りにわ  
たつて代々千葉家が経営をしている。  
当主は六代目になる。

「龍門亭」の名は、旧南部藩主南部  
利剛公が明治十一年に旧領地巡行途  
中この宿で休息をとった折に、かつての  
家臣が営むこの宿のために下賜され  
たのだという。東北の多くの老舗の温  
泉宿が、庶民の保養や湯治のための宿

日本庭園と一体化した露天風呂



広く清潔な大浴場が男女別に2つある。  
大きな窓から眺める雪が降り積もった冬の  
夜の日本庭園も格別だろう

開業当時の日本庭園が宿の誇り



ロビーにはポプリが置かれていた



から始まっているのとは、少しばかり趣が異なるのだ。

この宿ならではの歴史を今に伝えるのが、開業当時のからの広大な日本庭園。本来は回遊式と呼ばれる様式の庭園だったが、平成八年に、歩く庭から眺める庭へと手が加えられた。当主は、由緒ある庭園を自分の代で手を入れていいものか迷ったそうだが、個人客や小グループ客にくつろいでもらえる宿として生まれ変わるための一大決心だったと言う。

今、この庭園は、二つの大浴場とそれに続く露天風呂(夜の十二時に男女を入れ替える)、そしてラウンジバーの借景として、泊まり客の目を和ませている。夜間はライトアップされる。「自分の口から言うのもなんですが、露天風呂から眺めるライトアップされた冬の庭園が最高なんですよ」と当主は目を細めて語る。

近ごろの温泉宿としては珍しいことだが、千葉旅館では外来入浴のお客さんとはとっていないのだそう。それもまた、宿泊のお客さんに本当ののんびりくつろいでもらいたいためなのだろう。

### 客を覚えていてくれる宿

料理もまた手間がかかっている。県外からのお客さんには秋田名物のきりたんぼを主体に、県内からのお客さんにはきりたんぼに代わる献立が夕膳に並ぶ。僕が泊まった夜の献立は、鹿角牛味噌漬の石焼き、イワナの一夜干し、ウニまんじゅう、フカヒレ入りの茶碗蒸し、豆乳しゃぶしゃぶ、おこげの

露天風呂からライトアップされた庭園を眺める



雪景色の露天風呂





食事は夕朝食とも、2名までは部屋食。3名以上だと会食場になる。家庭料理風の素朴な朝食が、旅の2日目の朝にはうれしい



「鹿角牛味噌漬の石焼き」



「おこげのあんかけ」



客室には「本館」と「新館」がある。古き良き日本旅館のおもむきの残る本館の客室の風情は魅力。



夕食はオリジナリティー溢れる献立「柿の酢の物」



「ウニまんじゅう」「ジュンサイとナタデココ」

大湯といえはストーンサークル(環状列石)を思い出す人も少なくないのではないだろうか。千葉旅館のお客さんの中にも、はるばる遠方から大湯ストーンサークルの見学にやってくる考古ファンも多いという。平成十四年四月にストーンサークルに隣接して「大湯ストーンサークル館」がオープンした。いわばストーンサークル博物館。子供のころに遠足でストーンサークルを訪れたことのある人も改めて古代の謎に迫ってみるといい。謎といえば、ストーンサークルから2kmの距離には、古代のピラミッドではないかという説のある黒

### 歴史をしのぶ小旅行

あんかけ、マツタケの土瓶蒸しなどなど。どうだろうか、あなたはこんな献立が並ぶ温泉宿に泊まったことがあるだろうか。

一人ひとりのお客さんを大切に思う思いがあるから、当然のようにひいきのお客さんができる。千葉旅館にはリピーターのお客さんが多いという。一度この宿に泊まったお客さんが、たまの休暇をのんびり過ごしたい時にふと思いついたことが、やはりこの宿なのだ。

驚いたことに、宿のほうでも、一度泊まったお客さんの食事の好みは全部記録に残しているのだという。どんな食べ物も苦手で、あるいはどの献立が特別にお気に入りだったかということも記録として書き留め、次回以降に宿泊した折りの献立に反映させるのだという。同じお客さんが何度も繰り返し泊まりに来てくれる宿にしていこうという、この宿の決意の表れなのだろう。



大湯温泉の近くにある止滝



今春にオープンした大湯ストーンサークル館



古代のピラミッドという説のある黒又山

万座環状列石。周囲を復元された古代の建物が囲んでいる



ライトアップされた庭園を眺められるバーもいいムード。カクテルは宿のオリジナル「縄文の宴」

又山、別名クロマンタもある。麓からの高さわずか80mの小山だが、見るからに端正な円すい状の山容は、確かにどこか人工的な気配を感じるのだ。一見の価値あり。

また、鹿角市は滝が多いことでも知られており、大湯温泉の周辺だけでも二十カ所あまりを数える。温泉郷内にある大湯温泉総合振興プラザに立ち寄れば、滝巡りのパンフレットも手に入られる。カメラ片手の滝巡りも面白いだろう。

明治の芝居小屋康楽館がある小坂町までは大湯温泉から10kmあまり。「明治百年通り」には、康楽館のほか、小坂鉱山事務所や天使館などのレトロな建造物が建ち並ぶ。

千葉旅館は不老倉銅山の役員クラスの定宿としても利用されてきた歴史を持つが、往時の名残をとどめない不老倉に代わり、かつてのこの一帯の鉱山のにぎわいがしのばれる小坂町で、小旅行の一日を過ごしてみるのも一興だろう。

(写真真ん中よりゆづりつ)秋田市



小坂町康楽館

RYUMONTEI CHIBARYOKAN

#### 施設のご案内

- 客室／38室
- 収容人員／180名様
- 浴場／大浴場・露天風呂
- ご宴会場／大宴会場・中宴会場・小宴会場
- 駐車場完備
- 会議室・ラウンジ&バー・売店

お一人様1泊2食付  
13,000円～22,000円(税別)  
※お部屋とお料理により異なります



**龍門亭 千葉旅館**

〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯温泉  
TEL.0186-37-2211 Fax.0186-37-2629  
ホームページアドレス <http://www.ink.or.jp/~ryumon/>  
Eメールアドレス ryumon@ink.or.jp